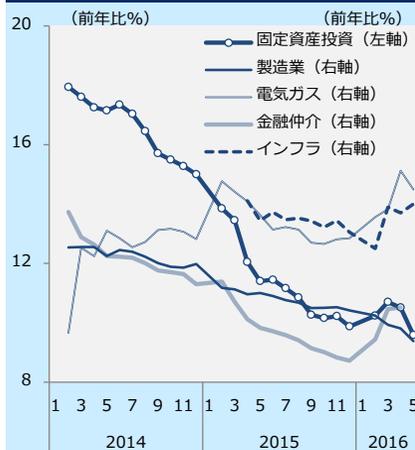


中国：5月の経済指標 —製造業を中心に投資が大幅鈍化—

MRI Daily Economic Points June 14, 2016

投資



輸出入



生産



物価



評価ポイント

今回の結果

- 2016年1-5月累計の固定資産投資は、前年同期比+9.6%と1-4月(同+10.5%)から伸びが大幅に鈍化した。製造業が同+4.6%(1-4月同+6.0%)と、過剰生産能力の調整による影響から急速に伸びが低下したことが主因。一方、政府によるインフラ投資や住宅投資は好調、サービス業も同+11.9%と高い伸びを維持した。
- 1-5月の小売売上高は、前年同期比+10.0%と1-4月(同+10.1%)から伸びが鈍化したものの、引き続き高い伸びを維持している。食料品や衣料品などの伸びが鈍化しているが、小型車向けの減税措置などもあり自動車消費は好調を維持している。
- 5月のドル建て輸出は前年比▲4.1%、輸入は同▲0.4%と依然として前年比で減少を続けているが、自動車の輸出が好調であるなど、輸出入ともに2月以降やや持ち直しの動きがみられる。
- 5月の鉱工業生産は、前年比+6.0%となり、前月(同+6.0%)と伸びは変わらなかった。低調な鉄鋼生産などが下押ししたものの、堅調な消費や輸出を受けた自動車などで増加し、生産の伸びは横ばいにとどまった。
- 5月の生産者物価は前年比▲2.8%と下落幅が縮小傾向にある。原油価格の上昇に加え、鉄鋼価格が前年比プラスに転じるなど、下押し圧力が弱まっている。消費者物価は同+2.0%とやや伸びが鈍化した。

基調判断と今後の流れ

- 中国経済は、政府のインフラ投資拡大、自動車の取得推進策、都市部での活況な住宅市況などが下支えしているものの、弱い民間投資を映じて成長鈍化傾向が続いている。
- 鉄鋼や石炭など過剰生産能力の削減は進捗している。しばらくは、過剰生産能力の調整などによる経済への下押し圧力が続くが、政府の景気刺激策が下支えとなり、緩やかな減速にとどまる見込み。